

和をもって

第4号

発行
成相山成相寺

京都府宮津市字成相寺339
TEL0772 27 0018
http://www.nariaiji.jp

三つ目の教え

緑眩しい青風の季節を迎え、皆様方には如何お過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。

今年成相寺は春先より五月の末まで『花山法皇御忌特別開帳』を行いました。予定外ではありますが毎日お観音様のお顔を見上げて、幸せに浸っておりました。

私もいよいよ五十の声聞こえて来る歳となりましたが、僧籍に入ってから二五年目を迎えました。まだ修行中の身ですが祖父の哲真から教えられた基本があるから今も頑張っているのだらうと思える事が多々あります



一つは、一生懸命に生きる命は美しいと言うこと。
二つは、どの命も最初で最後、命を大切に生かし切ること。
三つは、……。
今日はその三つ目の事についてお話させて頂きたいと思えます。今から二五年前、僧侶になりたてのホヤホ

ヤの頃でした。老僧の所には毎日説教を聞きに来られるお客様が絶えませんでした。私はいつものように廊下に座り話を聞いていたのですが「ちょっと中に入れ」と呼ばれ老僧から唐突に質問されました。
「おまえは高野山の学校を出て修行もしてきた。高野山で何を学んできたのだ？」と。
いきなり改めてそう尋ねられると返答に困ってしまいました。
「おまえは高野山で仏教の勉強をしてきたのだらう？ 仏教とは何なんだ？」と。本当に答えに困りました。
すると老僧はお客様にこう言ったのです。
「大学を出て、修行をしてきた孫にも答えられないのですから、あなた方が解らなくても当たり前なのですよ」と。
そして老僧はこう言いました。
「仏教を開いたのは釈迦である。釈迦はサンスクリット語で（仏陀）ブツダと言う。漢字では覚者と書く。悟りを開いた者の事を覚者と言うのです。そして覚者とは完成された人間の事であり、完成された人間とは、その人の人格の完成を言うのです。仏教を信じ

る者はこの覚者となるように精進を重ねるのです。その為の手助けをするのが僧侶なんですよ。」と。

もつと難しい答えを想像していた私には肩すかしのようであり、また逆に難しかったパズルが一気に出来上がった気がしました。寺院や僧侶のイメージというところ、どうしてもお葬式や法事と言う様になります。本来は現世に仏様（人格の完成された人々）が一杯の世を、つまりこの世を極楽浄土とする為に働くという意義が大きいのです。

たとえば、私達に仏様が成績表を下さるとしたら何点頂けるかと想像してみても下さい。

一般的に考えると収入も多い方が良いし家とか車も立派な方が良いでしょう。しかし仏様が見て下さるのは素のままの私達であります。その人となり、どの様な思いで何を言い、何を行なったか、どんな人生を生きてきたのかという事柄を大切に見て下さるのだと信じています。

これが三つ目の教えです。皆様が仏様から良い成績表を頂かれるように、その為のお手伝いをさせて頂く。お手伝いさせて頂ける様な僧侶となる努力をする。

二五年目にしてまだまだ修行途中の私ですが今一度心に刻み勤めて参りたいと思えます。

合掌 弘眞

南無観世音菩薩

今回は山内巡りをお休みしまして特別開帳に寄せて、丹波清園寺ご住職近藤様のお話をご披露いたします。御開帳の折はいつも本堂に話して頂き、お参りの方々に笑い有りのほつとするひとときの法話をお世話になっております。お聞きになられた方も多いかと思えます。親身になってお話しただくそのお姿にファンの方も多いご住職様です。



特別ご開帳を終えて

平成十七年、成相寺開創一千参百年と御本尊の三十三年目のご開帳を重ねて七ヶ月間の法要がありました。

忘れもしません、十一月十二日には閉帳（扉を閉める）法要をしてお厨子の扉を閉め、お参りの皆様に向かい『次にご本尊様とお出会い出来るのは三十三年後の平成五十年です』と言ったのはホンの少し前の事の様な気がします。ご開帳のお手伝いも今日が最後ほつとする気持ちの中に寂しさを感じたのを憶えています。当時四十四才の私が七十七才になった時が次のご開帳ですから……。

ところがどうでしょう！ 昨年九月より、御開帳の運びとなったんです。予定外の出来事で再び御本尊様に会えることになりました。

ることになりました。

ご開帳の初めの頃は『数年前に御本尊様とは三十二年間出会えないと言っていたのでは……』などとお叱り？を受けるのではと思っていました。お参りの皆様方の『こんなに早く逢えて嬉しかった』『前回は体調が悪くお参りできず諦めていたが、今日逢えて涙がでました』などの言葉をいただき、初めの頃の心配も消えていきました。

「お参りされる方に悪人なし」のご住職の思いにより、内陣（赤い絨毯の部屋）に入っていたいただき御本尊様の足元まで進んでお出会いしていただきました。

『こちらの御本尊は平安時代中期の作の仏様で腰を少しひねって立って居られます。セクシーやなあ。と見るのは男の邪道な目。たとえば仏様の前で子供が「ころん」とこけて泣いて居たとします。やさしく腰を曲げて右手をその子に差し出して助けようとしてくださる。そのお姿なんです。子どもというのは私達生きている者の事です。一言も言葉を発する事のない仏様ですが私達にいろんなメッセージを送って下さっているのです。

例えるなら観音様はラジオの放送局の我々はラジオ。放送（観音様のメッセージ）を聴こうとしてラジオのスイッチを入れる（発心・お参りをしようと思う心）、もう一つ観音様の声を聴くには周波数・チャンネルを合わせてもらう必要があるのです。これが巡拝（修行）です。右に左にチャンネルを回して少しでも多くのメッセージを受

け取って下さい。』

又、内陣でご案内をしていくなかで出来ていったお話が……。

『ご本尊様の近くに進まれますと足元に段差があります。お気をつけ下さい。ご本尊様ばかりを見て進まれますと、足元をすくわれた様になり危ないですよ。ところでいいですか。足元すくわれた時、つまずかれた時の心が大切ですよ。「自分一人がつまずいて恥ずかしい。ほかの誰かもつまずいたらいいのに」……これ悪い心よ。自分がつまずいたら「危なかった所はここだ。皆さんは気をつけて」……これが仏の心！お参りの皆様もさっそく声掛け合いながら観音様に御出会い下さいました。

成相寺老僧に教えていただいた六道（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人界・天界）のお話があります。

『地獄は愛が無い世界、餓鬼道は自分が可愛い、畜生界は親子愛が増える、修羅界は一族への愛情が増えて、人間界とはもう一つ愛が増える世界である』と。人間界にあるもう一つの愛とは、互いに相手を思う「思いやりの心」でしょうか。

しかし現在、耳を疑うようないろんなニュースが伝えられています。そんな時はいまま少し相手を思いやる気持ちがあつたら……と思ってしまう。

「思いやりの心。」大事にしたいですね。最後になりましたが、ご開帳のお手伝いが出来ましたこと感謝いたします。ありがとうございます。合掌

清園寺 近藤

納経所だより



今回は納経所最古の猪俣さんに寄稿をお願い致しました。自治会等の役職を多数引き受けられて多忙の方ですが困った時は心安くお手伝い下さる頼もしい「お父さん」です。

私が成相寺にお世話になったのは二五年位前の事で哲眞僧正がまだお元気な頃でした。納経所に入ってからと空気が張り詰めた様な感じであったのを思い出します。僧正は折ある事に説法をされ「人間は自分自身を見つめて善悪を見極めなければいけない。又少しでも仏様に御縁を頂いたら善をほどこせ。」とよく言われました。仏教語に「一圓相」と言う言葉があります。「圓」は欠ける所も余す所も無い完全な「円」円満であり森羅万象を表します。始まりも無ければ終わりも無い無限に続く宇宙の意味であるそうです。成相寺の納経はこの「円」を含んだ「圓通閣」と書きます。

喜ばしいことに成相寺は若い弘眞僧正が晋山され職員一同も何事も「圓く」「和をもって」人に接しており、仏様のお慈悲を頂きながら皆頑張っております。又、先代の昭眞僧正がお造りになつた「パノラマ展望台」は名勝天橋立が眼下に広がる天下一品の絶景です。

これから季節も良くなりますので、皆様どうぞお参りに来て下さい。お待ち致して居ります。